

2019

水辺の生き物調査 調査結果報告



令和元年8月6日(火)朝9時30分から、須川フィッシングセンターの近くで、小学2年生～中学1年生の7人が参加し、水辺の生き物調査を実施しました。なお、調査はコンサルタント会社調査員の指導の下に行いました。

当日の調査のようす



■ ライフジャケットをつけ、注意事項を聞いてから川に入りました。



■ リーダーから生き物の捕まえ方のコツを教わりました。



■ 草の根元や石の下などに隠れている川の生き物をたくさん捕まえました。



■ 陸に上がり、リーダーの説明を聞きながら捕まえた生き物の名前や特徴を学びました。



■ ルーペやピンセットを使って観察。わからないことはリーダーにどんどん質問しました。



■ 捕まえた生き物のシールをはり、「こんな生き物見つけたぞ！シート」にまとめました。

調査の結果

- サワガニやトンボの幼虫、トビケラ、カワゲラ、カゲロウの幼虫など、全部で **48 種類 (5 門 6 綱 16 目 39 科)** の川の生き物が確認できました。
- 貴重な生物は、静岡県のレッドデータブックで準絶滅危惧 (生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) に指定されている **モノアラガイ** や **カジカ** が確認できました。
- すんでいる生物の種類から川のきれいさをしらべる日本版平均スコア法にこの結果を当てはめると、7.4 点となります。ここから、この川の水質は良好 (かなりきれい) であるといえます。このスコア値はここ 2~3 年の調査で変化がなく、小山町ではきれいな川が維持されていることがわかります。

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	参加者が見つけた種	スコア値
1	扁形動物門	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマズムシ科	ナミウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>	●	7
2	軟体動物門	腹足綱	新生腹足目	カワニナ科	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	●	8
3			汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	●	3
4			柄眼目	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>	●	-
5	環形動物門	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミミズ科	ミズミミズ科	<i>Naididae</i>	●	4
6	節足動物門	軟甲綱	ヨコエビ目	キタヨコエビ科	オオエゾヨコエビ属	<i>Jesogammarus sp.</i>	●	8
7			エビ目	サワガニ科	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	●	8
8		昆虫綱	カゲロウ目	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>	●	8
9				マダラカゲロウ科	マダラカゲロウ属	<i>Ephemerella sp.</i>	●	8
10				コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ	<i>Alainites yoshinensis</i>	●	6
11					フタバコカゲロウ	<i>Baetiella japonica</i>	-	-
12					シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>	-	-
13					ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>	●	-
14				ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>	●	-
15					ウエノヒラタカゲロウ	<i>Epeorus curvatus</i>	●	9
16					エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>	-	-
17					ユミモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus nipponicus</i>	-	-
18					ヒメヒラタカゲロウ属	<i>Rhithrogena sp.</i>	●	-
19			トンボ目	カワトンボ科	ミヤマカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i>	●	6
20					カワトンボ属	<i>Mnais sp.</i>	-	-
21				ヤンマ科	コンボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	-	-
22				サナエトンボ科	ダビドサナエ属	<i>Davidius sp.</i>	●	7
23				オニヤンマ科	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●	3
24				エゾトンボ科	コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	●	-
25	カワゲラ目			オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属	<i>Amphinemura sp.</i>	-	6
26				カワゲラ科	コナガカワゲラ属	<i>Flavoperla sp.</i>	-	9
27	カメムシ目			アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	●	-
28					ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>	●	-
29					シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	●	-
30	アミメカゲロウ目			ヒロバカゲロウ科	ウンモンヒロバカゲロウ属	<i>Osmylus sp.</i>	●	-
31	トビケラ目			シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	●	7
32					セリーシマトビケラ	<i>Hydropsyche selysi</i>	-	-
33				イワトビケラ科	ミヤマイワトビケラ属	<i>Plectrocnemia sp.</i>	-	9
34				ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	●	9
35				ヤマトビケラ科	ヤマトビケラ属	<i>Glossosoma sp.</i>	●	9
36				ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ	<i>Rhyacophila brevicephala</i>	●	9
37					ニッポンナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nipponica</i>	●	-
38				コエグリトビケラ科	コエグリトビケラ属	<i>Apatania sp.</i>	-	9
39				ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>	-	7
40				カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ属	<i>Lepidostoma sp.</i>	●	9
41			ハエ目	ヒメガガンボ科	ヒゲナガガガンボ属	<i>Hexatoma sp.</i>	●	-
42				ガガンボ科	ガガンボ属	<i>Tipula sp.</i>	●	8
43				アミカ科	ヒメナミアミカ	<i>Blepharicera japonica</i>	●	10
44				ヌカカ科	ヌカカ科	<i>Ceratopogonidae</i>	-	7
45				ホソカ科	ホソカ属	<i>Dixa sp.</i>	-	-
46				ブユ科	アシマダラブユ属	<i>Simulium sp.</i>	●	7
47	脊椎動物門	硬骨魚綱	カサゴ目	カジカ科	カジカ	<i>Cottus pollux</i>	●	-
48			コイ目	コイ科	コイ科	<i>Cyprinidae</i>	●	-
計	5門	6綱	16目	36科		48種	32種	平均: 7.4

※参加者が見つけた種と、生き物の専門家の先生が見つけた種を合わせて48種でした。

もうちょっと詳しく

【学名】・・・生物につけられた世界共通の名前。ラテン語という言葉が使われている。

【和名】・・・日本語の名前。

【門 (もん)、綱 (こう)、目 (もく)、科 (か)】・・・生物を分けるための分類階級。門から順に小さい区分となる。

【○○属】・・・和名が○○属となっているのは、○○の仲間という意味。細かく分けるのが難しい種類。

【日本版平均スコア法】・・・出現した全ての生物を科レベルで点数化し、それを出現した科数で平均してスコアを求める。

平均スコアは最高 10 点で、高いほど水質が良いとされる。

こんな生き物がいました！

調査を行った川は、水が冷たくて流れが速く、川岸には植物がはえていて、川底には石がごろごろしている場所や、砂の場所もありました。今回の生物調査では、その場所に合った様々な生き物が確認されました。きれいな水に生息するフタスジモンカゲロウ、ごろごろした石の川底に生息するヒゲナガカワトビケラ、植物があるところに生息するコヤマトンボなどです。きれいな川に生息する生物が多く確認されました。

水生昆虫



■ヒゲナガカワトビケラ（幼虫、さなぎ）
幼虫は水がきれいな川に生息しています。石の裏に絹糸の網を張り、引っかかった藻類などの有機物を食べます。



■ウンモンヒロバカゲロウ属（幼虫）
カゲロウという名前がついていますが、幼虫は肉食性で、水生昆虫のカゲロウ類ではなく陸生昆虫のアリジグクに近い仲間です。



■ヒロアタマナガレトビケラ（幼虫）
水がきれいな川に生息し、幼虫は肉食性で、巣を持たずに石の間を歩いて生活しています。



■ガガンボ属（幼虫）
別名として『カトンボ』などと呼ばれる虫の幼虫です。川の落ち葉の下などに生息しています。



■コヤマトンボ（幼虫）
幼虫は川岸の植物の根元で生活しています。脚が長く、ゆっくり這って移動します。



■フタスジモンカゲロウ（幼虫）
幼虫は流れのゆっくりした川の砂底に潜って生活します。背中のでらで呼吸をします。



■ミヤマカワトンボ（成虫）
日本最大のカワトンボです。幼虫は川岸の植物にしがみついで生活しています。



■カクツツトビケラ属（幼虫）
ミノムシのように枯れ葉でつつ状の巣をつくります。雑食ですが、主に川の中の藻や枯れ葉などを多く食べます。

カニ



■サワガニ
川の上流に生息します。小さいうちはあまり水から出ませんが、大きくなると川のそばの陸地などでもみられます。雑食です。

魚



■カジカ
きれいな冷たい水が流れる川に生息しています。主に川底の石のすきまで生活している魚です。静岡県の準絶滅危惧種に指定されています。

貝類



■カワニナ
比較的きれいな水の中で生息しています。卵ではなく、小さな貝を産みます。ホタルの工サになる貝として有名です。



■ナガオカモノアラガイ
カタツムリのなかまで、水際で生活しています。この種が生息できる環境が貴重なため、準絶滅危惧種に指定されています。

扁形動物



■ナミズムシ
きれいな水に生息しています。再生能力が高く、体を2分したら2匹に、3分したら3匹になって生きていきます。『プラナリア』とも呼ばれます。

※生き物の写真は、すべて小山町で撮影したものです。